

▲▲▲ 思い出の山「裏ルートから登った宮之浦岳」 ▲▲▲

～屋久島・宮之浦岳・1936m～

深澤 裕

◎1987年8月10日（月）～8月12日（水） 単独

◎8月10日：鹿児島港8:00—宮之浦港12:00（尾之間温泉泊）

11日：湯泊6:00—湯泊林道取着9:00—三合小屋跡11:00—花之江河13:00—石塚避難小屋着（14:00）泊

12日：石塚避難小屋7:00—黒味岳9:00—宮之浦岳11:30—高塚小屋14:00—縄文杉・ウイルソン株15:00—
汁峠16:30—白谷雲水小屋17:00—楠川19:00（宮之浦泊）

30年前に一人で登りました。鹿児島港を朝8時のフェリーに乗ると昼には宮之浦港です。開聞岳を背に船が錦江湾を出るとトビウオが跳んでいました。飽きずに眺めていました。3時間ほどすると屋久島が前方に見えてきます。初めて目にした屋久島は上部が雲で覆われた山岳でした。

縄文杉やウイルソン株など7000年もの巨樹を身近で眺めてみたい。平内（ひらうち）海中温泉や幾つかの島の温泉に浸ってみたい。九州最高峰の宮之浦岳に登りたい。という目的で来ました。当時は未だ世界遺産にもなっていません。宮之浦岳の麓までロープウエーを通すなどという馬鹿げた開発計画が持ち上がっていました。

まずは海岸線に沿って走るバスに乗り、平中海中温泉に行き、温泉に浸かります。式根島の地鉦海中温泉に匹敵するウイルダネスの温泉でした。尾之間（おのあいだ）温泉「佐々木荘」でトコブシや尻高を肴に島焼酎を呑んで翌日に備えます。当初は尾之間尾根に登る予定でしたが、宿の人が「先週、千葉大の先生が尾之間尾根を下山中に迷ってまだ発見されていないのよ」などと物騒な事を言うので急遽、湯泊（ゆどまり）コースに変えて登ることにしました。

昭和58年発行の昭文社発行の屋久島・種子島の地図は、ぼろぼろでセロハンテープで辛うじてとめてあります。そいつを取り出して眺めながら当時のルートを思い出します。その頃の私は山登りを始めた頃で、北アルプスや八ヶ岳のトレッキングが中心の山行でした。道標はしっかりしているもの、道は整備されているもの、と当たり前になっていた頃でした。

しかし屋久島は自然が濃く、全く違いました。私が登るルートは湯泊コースという裏ルートでした。登山口まで、林道が3時間も続く、乾いた嫌な道です。しかし登山道に入るとそこは別世界でした。森が濃い。花崗岩の白い岩に苔が貼りつき、水が岩を滴り、沢登りをするような熱帯の印象です。歩道といってもステップも切っていない。大自然に抱かれる印象です。登り始めて暫く行くと問題が起きました。道標が全くないのです。ルートファインディングには、ほとんど困りました。花崗岩の上の苔が、すり切れている。木に鉦目が切つてある。かろうじて人が通った跡が残っている、などという所を探し

ながら歩くのです。今までの登山で経験しなかったことです。全神経を使ってルートを探すという体験をしました。「道はあるのが当然」という今までの経験則はふっとんでしまいました。花崗岩の道は常に水が滴り流れ、沢登りに近いような登路が続きます。晴天にも関わらず、雨具で完全装備なのに全身ずぶ濡れ状態です。屋久島は年間降水量が5000mm～10000mmと日本でも有数の多雨地域です。自然度が高いため登路の整備は大変そうです。道標などあったとしても数年で腐ってしまうのでしょうか。ジャングルのような水を含んだ葉をかき分けで歩いたため、汗びっしょりです。

ようやく6時間後、石楠花の灌木をかき分け花之江河（はなのえこう）に飛び出たときは、ほっとしました。自分の歩いてきた登山道が正しかった事がやっと確認できました。花之江河は石楠花に囲まれ

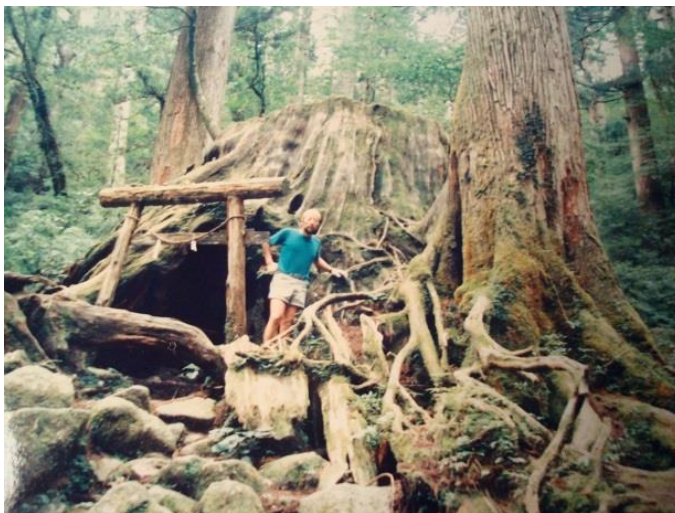
た静かな湿原です。木道がしっかりしていました。ここには道標もありました。一安心です。ここから宮之浦岳が眺められます。島といってもこのルートからは全く海が見えず、島に来ているという事を忘れていました。木道を歩いて近くの石塚小屋に向かいます。この避難小屋はまだ新しく快適でした。濡れたTシャツを干したり昼寝をしたりゆっくりしました。この日は、全くの一人の世界を楽しみました。屋久鹿の鳴き声を聴きながら静かな夜を過ごしました。

翌日は黒味岳（1831m）を登り、さらに宮之浦岳に向かいます。ここの道はしっかりしていました。メインルートだけあって安心して歩けます。何人もの登山者と挨拶を交わします。宮之浦岳（1936m）からの展望は素晴らしかったです。雲の合間から見える海が四方に広がります。登山中は島にいる事を感じなかったのですが、山頂からは海が眺められます。西に聳える永田岳（1886m）も立派な山でした。

下山は憧れの縄文杉・大王杉・ウイルソン株を通るルートです。道はしっかりとしています。道標も頑丈なのがありました。無人の湯泊コースと比べてあまりの人の多さに愕然としました。快適なトレッキングが続き3時間ほどで縄文杉です。

杉の太さ・大きさに圧倒されました。7000年の時間を感じながら暫く佇んでいました。縄文杉から2時間ほどの所にあるウイルソン株も凄いです。株の中に入ると30畳くらいの空間が広がり圧倒されました。

暫く歩くと軌道になります。嘗て屋久杉を切り出したときに使った生活道路トロッコの線路跡です。多くの人たちがこの島で生活していた様子が偲べれます。当時の学校の跡も残されていました。



（1987年8月、下山途中のウイルソン株の前で）


辻峠を越え、白谷雲水峡に向かいます。

この道はシダや苔が鬱蒼と茂り溢れていました。映画「もののけ姫」は、この谷のイメージを使ったと聞きましたが苔むした深い谷でした。

屋久島の裏ルートは確かなルートファインディング技術が求められる所でした。1993年に世界遺産になり脚光を浴び、縄文杉など訪れる人が増えているそうです。今はあまりにも訪れる人が多すぎてトイレ問題が起きているようですが、この島のウイリダネスはなくならないで欲しいです。下山後は宮之浦港の民宿で尻高と島焼酎を頂き、心地よい眠りにつきました。屋久島がこの自然をいつまでも残してくれることを願いつつ。

2017年1月記

（完）

特集記事目次画面に戻るには、画面最上段左の「戻るボタン」 で戻って下さい